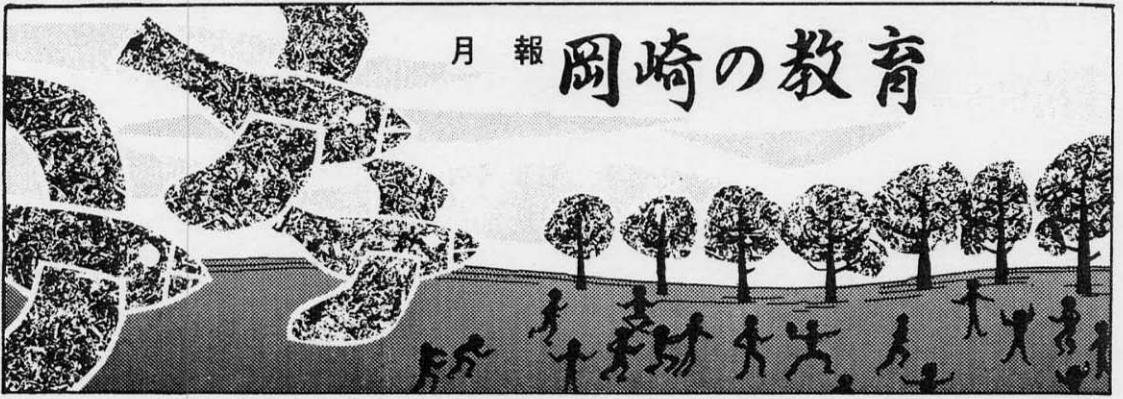


# 月報 岡崎の教育



6 月 号

昭和57年6月1日

編集 / 発行

岡崎市教育委員会

MTがはじまった。

水がひいたような静けさになり

二人の日直の声が

流れてくるだけになった。

しかし話し合いの時はちがう

せきを切ったように

みんなが意見を出し合い

話し合っていた。

明日はこのことに注意していこうと。

学習の反省。

各班で授業のまとめやテスト

みんなで行かない問題を

教えあい

班の中が協力していった。

明日の授業には困らないように

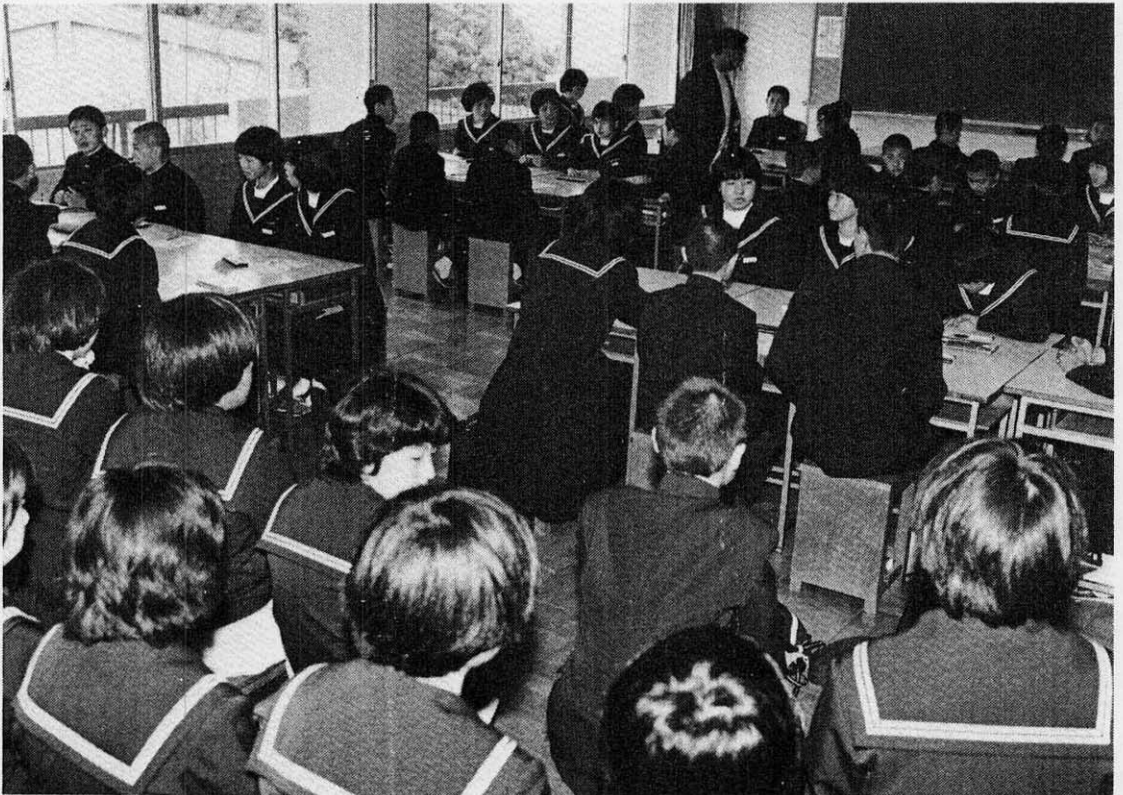
楽しく勉強できるようにと。

MTとは

自分たちでつくる

よりよい明日のための

第一歩なのだ。

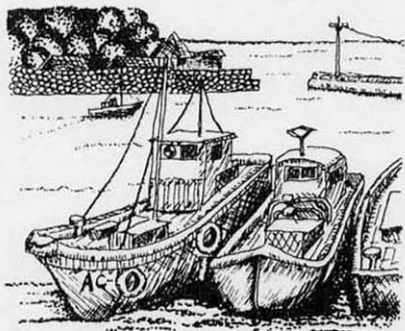


(ミドルタイム(MT)見学会 - 竜海中)

## — 教育随想 —

## 創造性と教育

諸熊奎治



福井教授がノーベル賞を受賞されて以来、しばしば受ける質問がある。「福井先生が御専門の量子力学の教えを受けられた先生はどなたですか。」福井先生にも何人かの恩師が当然おられるわけだが、量子力学については特に先生はなく、ほとんど独学で勉強されたのである。

教育とは、文字通り、教えることと育てることであろう。この二つは相補っていくものであるが、欧米の社会の考え方と比べてみると、日本では教える側面が強調されすぎているように思われる。

教えるとは、科学的な知識や社会の常識を次の世代に伝えることである。日本の教育は、小学校から大学にいたるまで教えることについては世界のトップにあると言っている。日本の小学生は、算数の計算が世界一速いし、理科の知識だって誰にも負けないだろう。この成果が優秀な技術者や勤労者を生み、安定した社

会をもたらさし、資源のない日本を経済大国に発展させたことは言をまたないだろう。

一方、育てるとは、一口に言って、個性をのびし、個人の能力が十分発揮できるようにすることである。福井先生が量子力学を使って化学反応理論を発見されたのは当時、京大工学部にあった創造性を重視する雰囲気、一人の天才を育てたからといえる。第二次大戦中にそのような環境があったことは不思議に思えるが、管理社会の進んだ今より、その当時や明治時代にある意味での自由があったのであろうか。

世界をリードする創造力の豊かな大人物を育てることは、先進国日本の世界における責任の一つだが、それを現在、十分に果たしているとは思われない。これには、教育は教えるものとする社会の考え方が大きな原因となっている。創造力

は教えるものではなく育てるものである。個人の能力を発揮させる必要性は天才に限らない。それぞれの個性をもった子供たちが、その個性を発揮できるようにすることも、進歩した社会の条件である。教の面のみならず育の面にも十分の配慮をした教育を行うには、社会が価値の多様性を受け入れる必要がある。偏差値がいいからA校はB校よりいいといった単純なレッテルはやめるべきである。大学も、入学者選抜は入試平均点主義をやめ、受験生の個性を見抜く各大学特徴のある方法を考えてほしい。

創造性を育てるには、小中学校での教育が大きな役割を果たす。高等学校や大学で急にはじめても遅すぎる。日本では小さい子供の時から、人と違うことは悪いことで、人と同じにするように教えられる。勿論、規則とか、団体行動とかを納得させることも重要であろうが、人と違うことは個性であり、大切に育てていくべきものだということを理解させてほしい。

科学における創造性の一つのあらわれであるノーベル賞の一年当たりの受賞数は米国が現在群を抜いているが、ある統計予想によれば、二十年後のピークを越えてあとは減少するという。この後を埋めるのは日本ではないかと、その予想は述べているが、社会の教育に対する考え方が変わらない限り、私は楽観してはいない。

(分子科学研究所 教授)

## 教えられ感激して

豊嶋典明



アメリカ・アイオワ州デモイン市で、大変心に残ったことを紹介します。

班員の方が、ホテルのロビーの机上に朝カメラを忘れたまま、学校訪問に出かけられたのです。もうなくなつたことだろうと諦め、夕方ホテルに戻ると、そのままの位置にカメラが置かれていたのです。その時の私達の感激は、大きなものがありました。

訪問先の小学校では、遠来の客をもてなそうと、全校児童を体育館に入れ、歓迎の会を催してくださいました。体育館に入場する際、児童達は一言も喋らず、キンダーの子供達まで、静かに整然としているのです。私達に親しみをこめて笑みかけ、小さく手を振り、挨拶します。

徹底した生活指導に敬服した次第です。日曜日の朝、ホテルの近くの公園に散歩に出かけました。芝生の美しい、大きな公園で、幾本かのリンゴやナシの木があり、おいしそうなお菓子を鈴なりにつけていました。ところが、それを取って食べ



—ふるさとの山河—

矢作川 (3)

遺跡

北野廃寺跡へ遠足に行った帰り道、日名橋付近で、水量の少ない流れに誘われて川原におりた。しばらくすると、同行の子供達数人が、土器の破片らしい物を手にして走り寄って来た。

「これは赤茶色だから縄文式か弥生式土器かな。君のは少し白っぽいから、もつと新しく、奈良時代ごろの須恵器かな。」

現在の川原は、古代人の生活していた場所そのものであり、上六名の真宮遺跡付近までは、複合遺跡の証拠となる数種の土器片をよく見つけることができる。市内の矢作川流域には数多くの遺跡や古墳がみられる。

明大寺丘陵が西にのびた端に真宮遺跡がある。ここは昭和四十九年に発掘された東海地方最大の遺跡であり、貴重な学術資料が発見された。住居跡や出土品は、縄文時代の終わりころから、弥生・古墳・平安時代の長い間にわたって、人々が生活し続けたことを物語っている。

中でも、生後まもなく死んだ子どもを埋葬するために使われたかめ棺が三十数個も発見され話題となった。

岩津地区では多くの古墳がまとまって発見された。於御所遺跡の発掘で、岩津地区は大昔から文化がひらけ、台地の端にいくつかの村ができていたことがうかがえる。

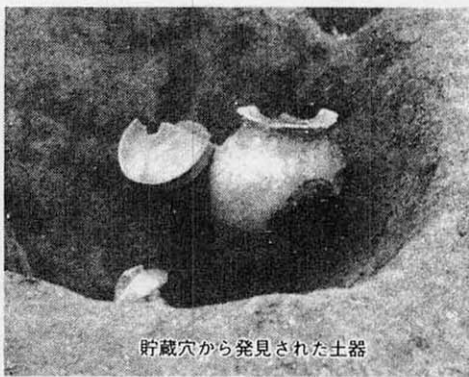
昨年は、旧岩津支所裏の台地に広がる生平遺跡の発掘調査が行われ、古墳時代中期(五世紀中頃)のたて穴式住居跡六十数軒、柱穴とは明らかに異なる貯蔵用の穴から土師器や須恵器がみつかった。

天神荘南の児童公園には岩津一号古墳と呼ばれる円墳がある。これは径十八メートル、高さ四、五メートルはあったと推測され、六世紀中ごろのものである。奥室の石壁に赤色顔料ベンガラが塗られておりめずらしい。また、環頭太刀柄頭の三葉環や装飾須恵器などが発見され、朝鮮や中国のかかわりが明らかにされた。

た。  
真宮遺跡や岩津一号古墳の遺物は、市の郷土館に保存され、展示されている。  
(岩津中・長坂信一)



矢作川から発掘された古井戸(矢作町)



貯蔵穴から発見された土器

る人が誰れもないのです。子供達は染しそくに遊んでいます。日本風の東屋を創っていた職人が話しかけて来ました。  
(南中)

マニラの印象

加藤 栄子

NHK ニュースなどで時折見かけるマニラは、日本と同じように車の多い街である。日本製の車が大変多く走っている。日本にいるような錯覚にすら陥いる。日本と異なる点は、むこうでは車検制度がないために、かなりのボンコツまで走っていることと、フィリピン独特のジープニーという車がたくさん往来していることである。

フィリピンの人たちは、大人も子供も大変愛想がよく、日本人を見かけるとカタコトの日本語を使って話しかけてくる。日本人観光客は、かなり多いとみえて、ホテルの人たちも、みやげ物売場の人たちも驚くほど日本語がうまい。

この国にいる間、不思議なほど老人を見かけなかった。また、太っている人も少ない。何故であろうか? 街ですれちがう若者は、皆スマートで、男女とも、彫が深く、浅黒く、いわゆる美男美女の多い国であるという印象をうけた。

短期間の旅行であったが、いろいろな面で、今まで気づかなかった日本のよさを改めて感じた。

(広幡小)

# 岡崎再発見

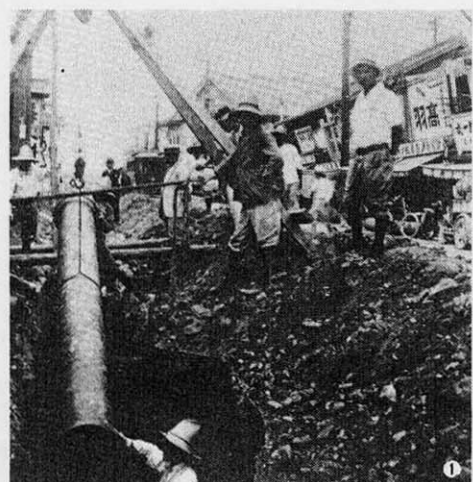
## 36 市民生活と

# 水



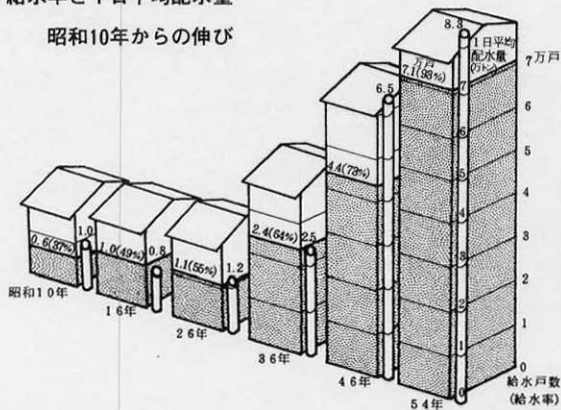
蛇口をひねれば水が出る。常にはあまり気に留めていないことだが、これから渇水期を迎えて、水資源の乏しい地方にとっては大問題である。ところで、岡崎市民は自分がどの川の水を飲んでいるか知っているだろうか。現在、岡崎市民は乙川、矢作川両河川から四つの浄水場を通したものと一部豊田市水源町の県浄水場の水を受水した水とを飲んでいる。市内の地底をほう水道管は総延長でほぼ東京から鹿児島までの長さ、一日給水量は市民一人に六〇〇リットル当たりという。

岡崎市の水道は昭和八年九月に通水を開始して来年で五十年を迎える。開設当時は水道に対する意識が低く、給水の普及に頭を痛めたとのことで工事を割り引いたり無料にしたり、果ては福引をつけたりして普及に努めたというが、今では市の総戸数約八万戸の内、九割以上が給水を受けており、今年度から始まる第四期拡張計画で、一部山間部を除き、市のほぼ全域が給水可能になる。水道五十年の今昔をたどってみよう。



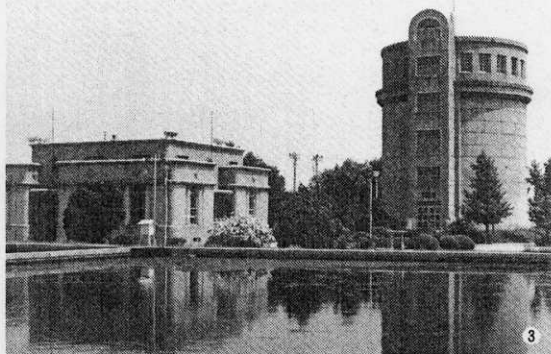
給水率と1日平均配水量

昭和10年からの伸び

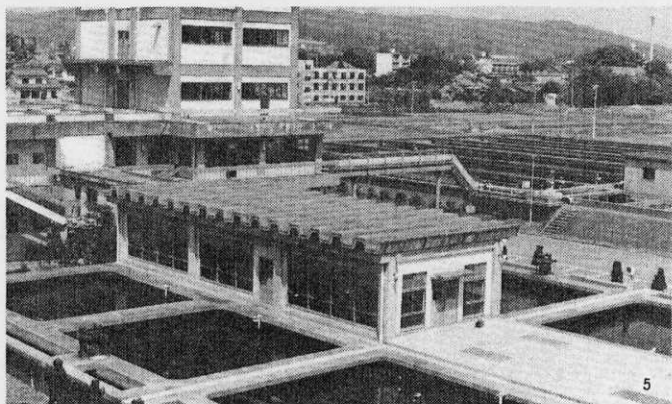




4

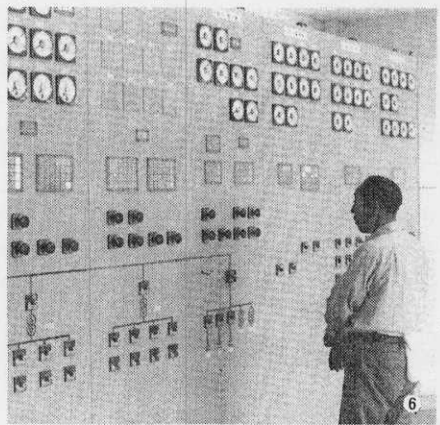


3

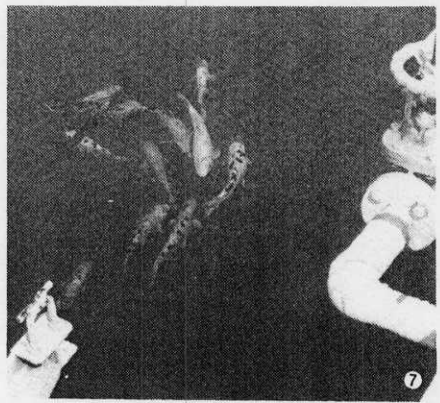


5

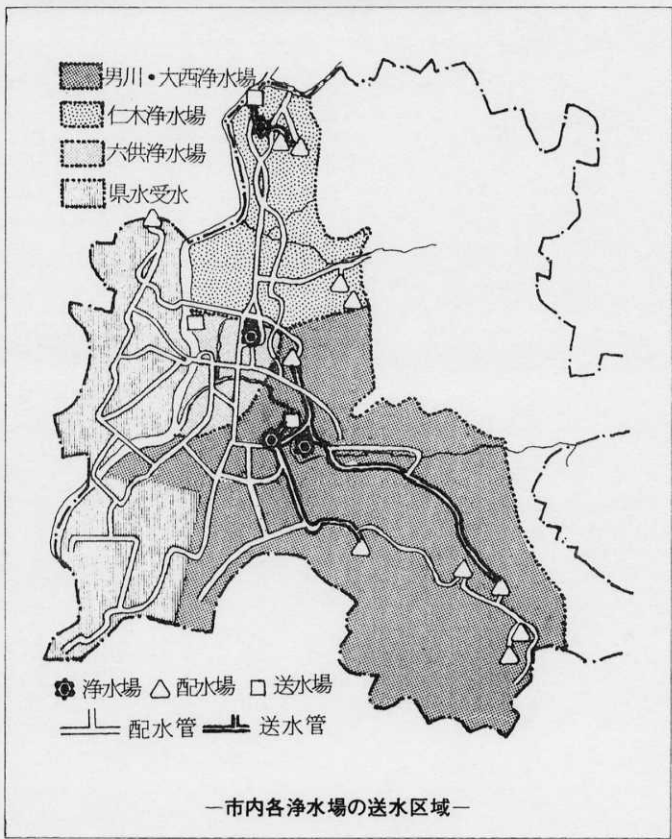
- ① 電車通りに水道鉄管を埋める工事。なつかしい市電や荷車も見える。(殿橋付近)
- ② 昭和八年七月十九日、公園図書館前で通水式が盛大に挙行された。
- ③ 開設当時の姿をそのままに、最も歴史の古い六供浄水場。
- ④ 最新設備をほこる仁木浄水場。昭和四九年通水開始。
- ⑤ 最も広い地域に給水する男川浄水場。仁木浄水場の集中管理室。
- ⑥ 毒物投入事件から一段と監視の目がきびしくなった。のんびり泳ぐコイたちも市民の生命を守るいけにえである。



6



7

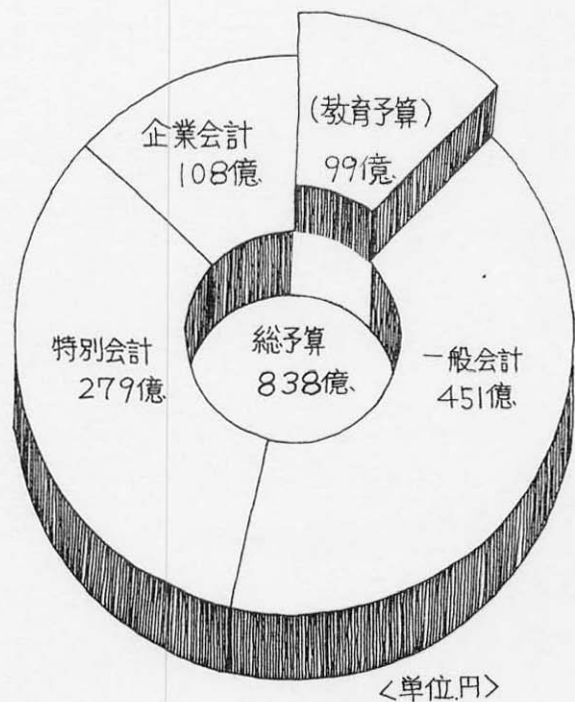


# 岡崎市の教育予算

“豊かな人づくりと

薫り高い文化の

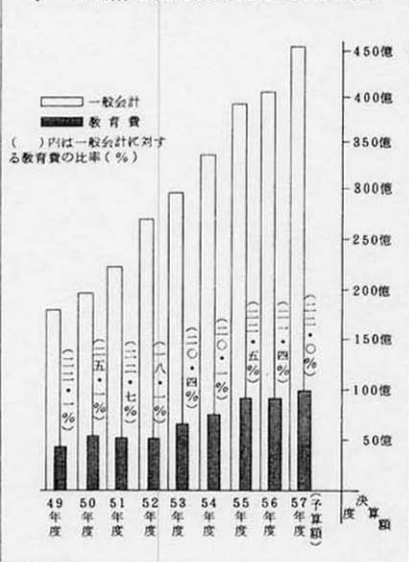
まちづくり”



## ズームアップ

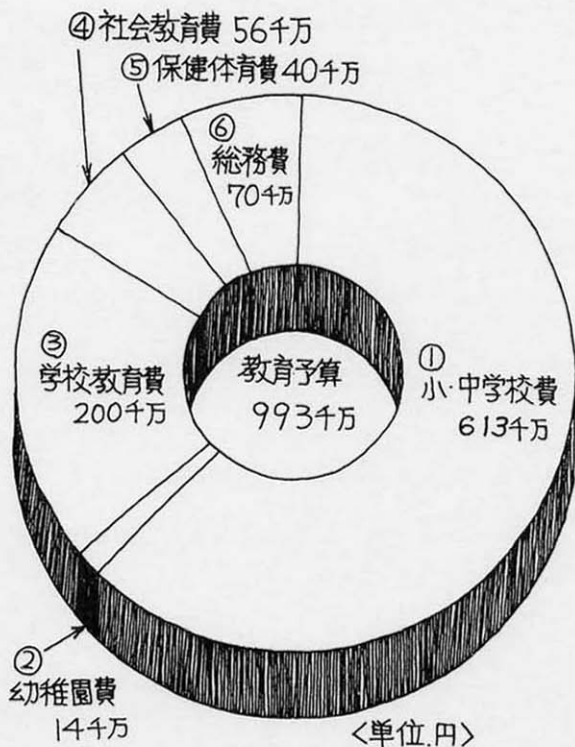
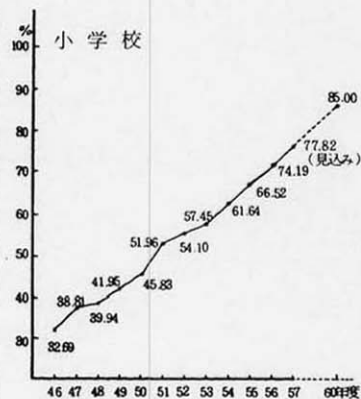
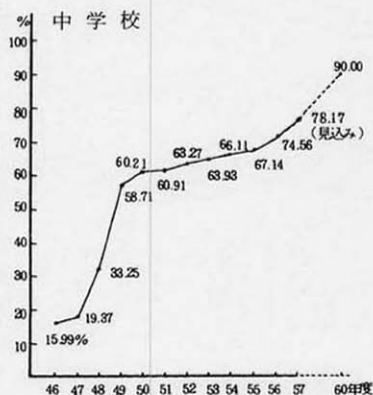
- ① 義務教育施設の整備として上地区に小学校を新設
- ② 校舎増改築は小四校、中三校、屋内運動場建設小一校、プール建設小二校中一校
- ③ 少年自然の家に野外遊具(グリーントリム)を設置
- ④ 美術館開館十周年特別企画展として「郷土ゆかりの日本画家たち」を開催
- ⑤ 新編岡崎市史編さん事業「古代中世史料編」をはじめ四巻を刊行
- ⑥ 地域運動広場を竜谷と舞木に造成
- ⑦ 岡崎のむかしばなし新編発行
- ⑧ 世界の子とも美術館作品蒐集開始

◆一般会計と教育費の推移(決算額)◆



◆校舎鉄筋化率の推移◆

—は各年5月1日現在の率  
 .....は予想



①小・中学校費…教育用備品充実

◎昭和57年度 学校施設整備計画

- ・小学校新設 (仮称上地小学校)
- ・校舎増改築 (奥殿小・根石小・矢作東小・六ツ美中部小・葵中・東海中・六ツ美中)
- ・屋内運動場 (秦梨小)
- ・プール建設 (常盤南小・恵田小・矢作北中)
- ・クラブハウス新設 (城北中・矢作中・六ツ美中)

②幼稚園費……公立幼稚園設置調査研究など

③学校教育費……対外大会参加遠征費補助・市民大学開設など

④社会教育費……図書館充実・少年自然の家施設充実など

⑤保健体育費……運動広場・スポーツ開放など

⑥総務費……市史編さん費・私学振興費



## 「せぬき」とJ子

城南小 清水 裕

3/17 やったあ。せぬきができたあ。体育で「せぬき」をやり始めて一年間。もう三学期も終わりに近い。みんなが自分のことのようによろこんでくれた。とてもうれしい。

K・J

J子は運動の苦手な子、五月末の調査では、さか上がりもできない子の一人であった。それだけに「せぬき」ができた時の喜びは、さぞかし、大きかったことであろう。

鉄棒の好き、嫌いは、できるかできないかで決まる。四年生で「せぬき」をとりあげた理由は誰もできなかったからであり同じ条件からスタートをさせたことと考えたからである。

J子は優秀な子である。ある日の放課に

「先生は、専門が体育というけど、わたしは全然だめだよ。」という。

「ほんとう、でもきつと好きにしてあげるからね。」

と相槌をうった。

「頼むね。先生、わたしががんばるからね。」

## 教育日々

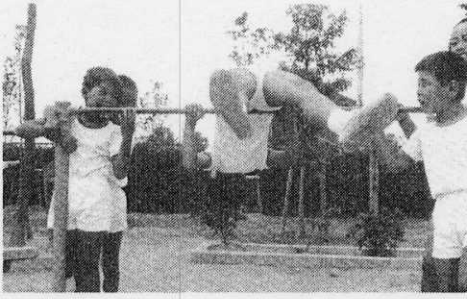


といった。J子の目の輝きを見て、みんなと同じようにしてやりたいと強く感じた。

できた時の「写真」や「感想文」を掲示したことも刺激となり子どもたちはよく努力した。

体育授業の外、始業前・業間・昼放課・授業後・日曜・祭日などあらゆる機会に練習した。

従って「せぬき」の合格者は月ごとに増えていった。十一月には二十三名の合格者が出ていた。



文化展に展示した「写真」や、「感想文」の前でJ子は涙ぐんでいた。くやしかったのだろう。「先生、わたし、どうしてもできない。もうできないかも知れない。」

「J子、あせらず毎日少しずつやろう。」

私は内心無理かと思っていた。それでもJ子は体育館裏の鉄棒を使ったり、ジャングリズムを使ってこつそり練習をした。それは涙ぐましい努力であった。

まだできない子を誘ったり、できた子に教えてもらったりして。J子には、くやしき、はずかしさをのり越えた意地があったのだらう。三月に入りJ子の努力はついに実った。クラスの子も、(一名を除き)全員できるようになった。みんなも祝福した。J子にとっても、忘れられない日となったであろう。

## クラス合唱の姿

## 六ツ美中 酒井 正子

本校では、毎年二学期に、校内合唱コンクールを行っている。私は、音楽教師と担任の一人二役で、辛い立場になる。当然、自分の組には頑張ってもらいたい。授業では、同時間数、同じよう

に指導するが、クラス差が出てくる。すると、担任の先生から鋭い目で見られてしまう。だから、担任も自然に練習に力がはいってやることも事実。

次の日記は、私の組のものである。

十一月七日(二年の部) 女子 ャッホノ我ら八組が、優秀賞(二位)を取るなんて信じられないと、初めは喜んだが、担任が音楽の先生だから、同情で賞が取れたという気がしてしまう。自分で歌っていて悪くは思わなかったが、みんなから、いつもより声小さかったと言われ、心の臓にグササ。自分では一生懸命歌ったつもりなのに。

十一月二十三日(文化祭) 伴奏 今日寒かったですね。私の手はとても冷たかったよ。先生ごめんさい。伴奏うまく弾けなくて……。でも私、毎日一生懸命練習したよ。中間テスト休みに入ってから今日まで。初めは晁代さんに誘われて仕方なく練習に行ったっけ。そして毎日少しずつ弾けるようになるのがうれしくて、そのうちに私が誘うようになった。私に悔いはありません。晁代さんありがとう。

彼女は、七月に組で伴奏者に



決定。弾けないと言って悩み苦しみながらも、みごと伴奏をした。十一月二十八日の日記にはレポート用紙二枚を張り、それにぎっしり「伴奏者になって」の感想が綴られていた。彼女を支えたものに、級友の美しい友情があり、また、彼女の人以上の努力の姿があった。

この大会により、まず、クラスのとまりができたように思う。特に三年は、進路、受験で親友との間が気まずいふん囲気になる時期。クラスの男女が心をひとつにして創るクラス合唱は、できばえもさることながら練習するプロセスが大切である。私は、クラス合唱に取り組む生徒の姿は何よりも私自身への励みとなっている。





## 第九回 岡崎市民大学の開校

岡崎市民大学も第九回を迎えることになりました。このほど開講日程と講師が左記のように決定されました。

### ◆期日と講師

- ① 7月25日(日)
  - 国際商科大教授 国弘 正雄氏
  - 略歴 昭和5年生、ハワイ大卒、文化人類学
- ② 8月1日(日)
  - 大吉寺住職 寺内 大吉氏
  - (成田 有恒)
  - 略歴 大正10年生、大正大卒
- ③ 8月8日(日)
  - 分子科学研究所長 長倉 三郎氏
  - 略歴 大正9年生、東大卒、物理化学、理学博士
- ④ 8月15日(日)
  - 筑波大教授 豊田 俊雄氏
  - 略歴 大正15年生、東北大、東大大学院卒、元アジア経済研究所総務部長、岡崎市出身
- ⑤ 8月29日(日)
  - セントラル・リーグ審判部長 富沢 宏哉氏
  - 略歴 昭和四年生、プロ野球審判
- ⑥ 9月19日(日)
  - 千葉工大教授木村 治美氏
  - 略歴 昭和7年生、東京教育大卒卒、アメリカ文学、エッセイスト

### 【寄贈刊行物資料等】

- ◆自作ビデオ教材活用事例集
- ライブラリー・社会科部
- ◆岡崎のハーモニー―感想文集
- 現職教育音楽部
- ◆県外研修実施報告書―第十集
- 教職員の研修に関する委員会
- ◆岡崎の学校保健 三十三号

### 岡崎市教委・学校保健会

- ◆自ら調べ磨き合い生きる学習の建設 細川小学校
- ◆笹 鳴 矢作中学校
- ◆西 光 第九号矢作西小学校
- ◆校務のしおり 第五集 校務主任会
- ◆梅園教師随想録 梅園小学校
- ◆おかざきの英語 英語部

が去る四月二十八日名古屋市中で開かれた。この席で、岩津学区交通少年団と香山中青少年赤十字が団体の部で表彰された。

### 昭和57年度月報編集委員

- ・伊沢 昭 (六南小)
- ・安藤 幸夫 (矢西小)
- ・渋谷 環 (緑丘小)
- ・遠山 賢治 (藤川小)
- ・成田 邦彦 (六ツ美中)
- ・加藤 進 (福岡小)
- ・平野 安世 (連尺小)
- ・大山 紘司 (細川小)
- ・熊谷 満義 (常磐小)
- ・清水 弥生 (根石小)
- ・竹内 昭次 (香山中)
- ・梶尾 長夫 (竜海中)
- ・加藤 憲尚 (男川小)
- ・八田 昌子 (三島小)
- ・柴田 隆夫 (葵 中)
- ・杉本 佳子 (東海中)
- ・野々山周次郎 (六名小)
- ・鈴木 由郎 (矢北中)

## 57年度

## ●児童・生徒数・教職員数の実態

57. 5. 1 現在

| 区 分   | 学校数 | 学 級 数<br>(特 殊) | 児童・生徒数 |        |        | 校長・教員数<br>(非常勤講師を含む) |     |       | 養護教員 |   | 事務職員 |    | 栄養職員 |
|-------|-----|----------------|--------|--------|--------|----------------------|-----|-------|------|---|------|----|------|
|       |     |                | 男      | 女      | 計      | 男                    | 女   | 計     | 県    | 市 | 県    | 市  | 県    |
| 小 学 校 | 38  | 817(33)        | 15,108 | 14,668 | 29,776 | 526                  | 473 | 999   | 38   | 0 | 42   | 21 | 8    |
| 中 学 校 | 15  | 318(16)        | 6,522  | 6,090  | 12,612 | 383                  | 142 | 525   | 15   | 0 | 20   | 6  | 0    |
| 合 計   | 53  | 1,135(49)      | 21,630 | 20,758 | 42,388 | 909                  | 615 | 1,524 | 53   | 0 | 62   | 27 | 8    |
| 56年度計 | 53  | 1,095(46)      | 20,867 | 19,962 | 40,829 | 867                  | 644 | 1,511 | 53   | 2 | 61   | 29 | 7    |

## ●学年別児童・生徒数

| 小 学 校 |       |       |       | 中 学 校 |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学年    | 男     | 女     | 計     | 学年    | 男     | 女     | 計     |
| 1年    | 2,364 | 2,407 | 4,771 | 4年    | 2,593 | 2,554 | 5,147 |
| 2年    | 2,590 | 2,471 | 5,061 | 5年    | 2,543 | 2,428 | 4,971 |
| 3年    | 2,621 | 2,549 | 5,170 | 6年    | 2,397 | 2,259 | 4,656 |

## ●学級・学校の規模

|              | 小学校  | 中学校  |
|--------------|------|------|
| 1校当たり児童・生徒数  | 783人 | 840人 |
| 1校当たり学級数     | 22学級 | 21学級 |
| 1学級当たり児童・生徒数 | 36人  | 40人  |

## 青木橋袂の碑石



所在地 - 岡崎市河原町八丁目

県道足助線、青木橋の南東に二メートル余もある碑石が建っている。

通りに面した方に「高野山大師教会岩津支部」、川に面して「知波夜城山厄除大師 知波夜堂」としてある。この知波夜堂とは西阿知和の大聖院のことである。

この寺院の歴史は意外に新しい。明治も末のこと、現住の先代はこの一角を自分の土地に持つお百姓だったが、四十歳をすぎたから僧になることを思い立ち、高野山で厳しい修業をつんだ後、この地にお堂を開いた。ところで、なぜそのような発

心をされたのか。本堂の建っている所を城山という。岡崎市史

によれば、永享年中(十三世紀中葉)阿知和右衛門大夫信季という人が築城しこの付近を治めたという。城は天正の頃まであったであろう。先住はこの城の供養を思い立ったのだという。さて、城の供養でもあるが、

先住の加持祈祷の力は評判で遠方からもおほらいをしてもらいたに信者がやって来た。この碑石は信者の一人、滝で羽振を利かしていた鈴木文吉という山石屋さんが大正末ごろに寄進したものであるそうだ。

## この本を

- |  |        |        |
|--|--------|--------|
| ○奈良の寺々<br>(古建築の見かた)<br>岩波ジュニア新書        | 太田博太郎  | 580円   |
| ○うさぎの勲章<br>恒友出版                        | 岸 武雄   | 1,200円 |
| ○開幕ベルは華やかに<br>新潮社                      | 有吉佐和子  | 1,200円 |
| ○魚津だより<br>毎日新聞社                        | 池田弥三郎  | 980円   |
| ○百人一首の秘密<br>青木書店                       | 林 直道   | 1,400円 |
| ○虫歯はどうしてできるか<br>岩波新書                   | 浜田 茂幸  | 380円   |
| ○先生少しは反省せよ<br>—受験期の中学生—<br>三一書房        | 安藤 操 編 | 980円   |
| ○破 船<br>筑摩書房                           | 吉村 昭   | 980円   |
| ○ともに生きる<br>全国心身障害者をもつ兄弟姉妹の会編<br>日本放送出版 | 直良 信夫  | 750円   |
| ○学問への情熱<br>佼成出版社                       | 直良 信夫  | 1,200円 |

「俺だつて……」、子供にこう思わせた  
ら、もうこつちのものである。しかし、  
容易にこうならないから苦労する。  
いくらクモの巣を張つても、獲物がか  
からなければどうにもならない。目に見  
えない糸をいかに張りめぐらし、多くの  
獲物をとらえるか。  
毎日が思案の連続である。

白い花で初夏の花と言えば、う  
つぎ、うの花。小学唱歌にも歌われ  
るほど庶民的で、しかも品がある。

以前、ある人を訪ねるのに、この花を  
一枝、手折って手土産に持参し、とても  
喜ばれた思い出がある。  
今年もはるげみが鳴き、うの花が生垣  
や谷間を白く埋める季節がやってきた。



「雨々降れ降れ母さんが……」の童謡ほ  
どの情緒もない穴のあいた番傘で通学し  
た自分たち。折り畳みやワンタッチのこ  
うもり傘の子供たち。そこには隔世の感  
がある。  
雨があがると、それらの傘が置きっ放  
し。やがて我れ関せず。物の大切さ  
を忘れさせた現代の傷は深い。

水道の蛇口へくるまでの道のりを  
訪ねた。上水場での取材の折、写真  
撮影に熱が入りすぎ、フェンス際に設  
置された赤外線による不法侵入警報装置  
が働いてしまった。「異常事態発生」と  
の連絡が警備保障会社から入ってしま  
びつくり。でも、これだからこそ、安心  
してなま水も飲めるといふものだ。